

インボイス中止山場へ

税金相談停止命令も警戒

税金経営対策分科会

議長：井上 清一 (小平東村山)
//：塩野 昌一 (狛江)
書記：高橋 那央 (狛江)



事前質問に対する回答文書を報告する大木部長

参加者は代議員22人、代議員以外の参加者16人の合計38人。はじめに議長より分科会が90分と短いため、2022年度の主な取り組みと教訓、情勢の項は割愛し、2023年度の方針提案のみを行なうことが確認されました。

助金については、昨年同様1万円となることを報告されました。また、TCフォーラムの活動については、昨年は満足に活動に参加できなかったが、今年度は「税金相談停止命令制度」との関わりもあり、重視して活動に参加したいとの答弁がありました。

「インボイス制度の具体的な取り組み提起について」、「毎月定例で24日に行なっている宣伝行動について」の要望が出され、「インボイスの関係では3月から6月が山場となり、本部でも要求実現アクションでの大規模集会や建設アクションでの国会議員要請が計画されています。支部では改めて各自治体へ、国にインボイスを止めてもらうよう要請する行動に、本支部一体となつて取り組んでいきたい」と

「12月24日はまさに消費税導入が決められた日となるので、ご協力をお願いします」との答弁がありました。

その後、3つの支部より活動報告をうけました。練馬支部からは「地域でのインボイスシンポジウムの取り組みについて」、多摩西部支部からは「地域運動と署名活動について」、西東京支部からは「自治体議会要請の取り組みについて」、それぞれの経験を踏まえた貴重な報告でした。

最後に全体の拍手で全ての議案の承認をうけました。

後継者対策分科会

議長：宮崎 将夫 (中野)
//：出井 章史 (港)
書記：宮内 竜平 (本部)



真剣な表情で提案を聞く後継対分科会の参加者

後継世代強化がカギ

分会・群との繋がりを強く

参加者は代議員21人、代議員以外18人、の合計39人。冒頭、議長に宮崎さんと出井さん、書記に宮内さんを選出して開始しました。

まず、佐藤専従常任からコロナ禍でも後継者世代が分会で若手の集活動に奮闘し、地域ボランティア活動や建設アクションなどで全世代が連携して発展した教訓の報告がありました。

①分会青年部結成をめざして分会部長の選出への支援、を提案。議案補強として三鷹武蔵野支部・竹内後継対部長から、後継者育成を支部全体の課題とし、3力年計画の中で交流会と群オトルクを進めた経

を養成し、資格講習受講者が5倍となった経験などが報告されました。

青年部からは、昨年の活動、若年組合員の働き方と仕事の現状が報告され、全世代の要求を実現、そして要求に結集

な日程設定要望など、7項目にわたる要望が出されました。中でも新型コロナウイルス対応については、今後5類に移行されるのに伴い、ワクチン接種が自己負担となった場合、インフルエンザと同様に補助金を出してほしいとの要望があり、「新型コロナウイルス感染症の5月以降の政府・厚生労働省の対応やワクチン接種状況を注視し対応します」との回答がありました。

7項目の要望を討議

5類移行後もコロナ補助を

参加者は代議員24人、代議員以外の参加者13人の合計37人でした。開会あいさつのあ

と、中村中央執行委員長と塩野部長のあいさつがあり、昨年度の経過報告と共済をめぐる情勢を担当中執が分担して報告。続いて、昨年の共済推進目標達成経験を足立支部、

精神的な文化活動経験を三鷹武蔵野支部からそれぞれ報告してもらいました。

事前の大会議案に対する質疑では、D-LIFEの拡大月間に活用できるタイミンクでの発行要望、前進座観劇を組織的に取り組めるよう

は、厚生文化部の開催日時について、平日昼間の開催では、仕事の都合上参加が難しいため、夜間または休日開催してほしいとの要望が出され、「夜間の場合、時間的に限られた短時間の開催になります。また、日曜日の過

厚生文化分科会

議長：津田 宗久 (荒川)
//：清水 辰夫 (江戸川)
書記：後藤 義典 (江戸川)



昨年の共済推進目標の達成経験を報告する足立支部の代議員

は、厚生文化部の開催日時について、平日昼間の開催では、仕事の都合上参加が難しいため、夜間または休日開催してほしいとの要望が出され、「夜間の場合、時間的に限られた短時間の開催になります。また、日曜日の過

去の部会出席率を比べた場合に平日と大きな差がない。今回は、要望として次年度の検討事項にします」との答弁がありました。

続いて、2023年4月1日から自転車利用時のヘルメット着用に関して努力義務化となることにより、自転車用ヘルメットを斡旋して欲しいとの要望があり、「ヘルメットの斡旋については、現在のところ、共済会では検討していませんでした。次年度の検討課題とさせていただきます。」との答弁がありました。

その後、木村書記次長による討論のまとめを行ない、最後に、分科会での質疑討論および討論のまとめを含め、大会議案を全体の拍手で承認しました。